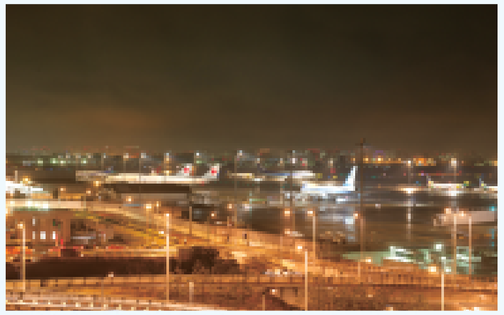
# 特別航空輸送隊

## 政府専用機が動く!

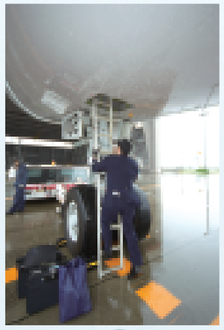
テレビ、ニュースで総理大臣等のVIPが政府専用機（政専機）を乗り降りしているのを見た事がある人も多いと思う。その政専機を運航・整備しているのは航空自衛隊なのだ。平成４年４月に千歳基地に臨時特別航空輸送隊を編成、各種の運用試験等を行い平成５年６月に特別航空輸送隊ができたのだ。現在までに８３カ国221空港を訪れた政専機。国内国外合わせて２２９回（8月15日現在）の任務運航を行っている政専機はボーイング社のB747型機を大幅に性能アップさせたもの。
乗組員はもちろん自衛官だが、普通の輸送隊や航空団にはない仕事も沢山ある。そんな特輸隊を少しだけ覗いてみた。


羽田にて

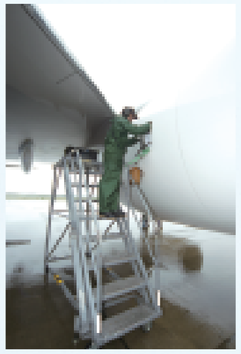
飛行訓練のディスパッチブリーフィングにおいて、フライトプラン等の確認を運航計画室で行う。各国ごとの空港の情報がぎっちりしまわれている。

政専機に乗り込むクルーたち。ステップカーの上から見るとこんな感じ。

機長の外部点検。すみずみまで点検。
整備員ありがとう。

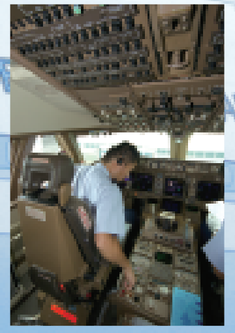


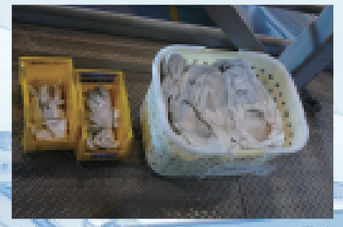
飛行前整備作業風景。
飛行隊と整備隊の結びつきは強い。

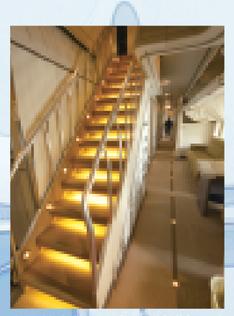


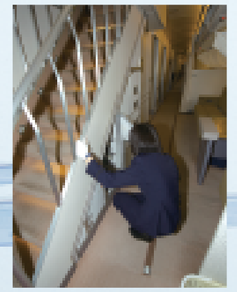
記者会見室でのクルーブリーフィング。何事もなく帰って来るために。

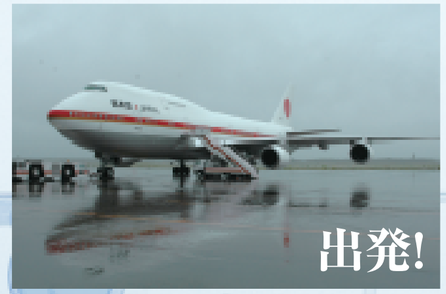
コックピット内でも念入りに打ち合わせ。パイロットとナビゲーターが入念に離陸前準備。


各国を巡るこの仕事は、時差対策も仕事のひとつ。また、国民性の違いを感じる事も多いという。
ハード面だけでなくソフト面での準備も必要だ。
運航打診が来たら事前に先遣隊が目的地の空港に行き、各種調査をする。


政専機に乗る時、靴に被せるカバー。VIPが搭乗する機体。汚さないように注意をはらう。
パイロットも客室にいる時は履いている。

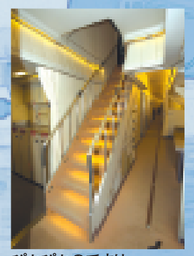



出発前点検のひとつ。誘導灯がちゃんと点くか。不審物はないか。



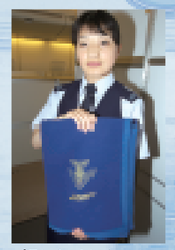
秘書官室

会議室

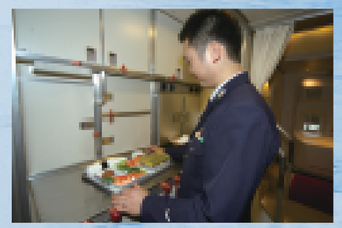

ぴかぴかのてすり

事務作業室

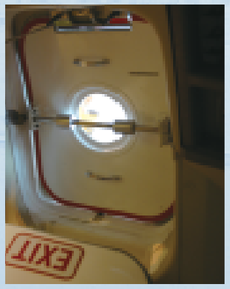
一般でいう客室乗務員。彼らは自衛官、空中輸送員（ロードマスター）なのだ。民間で客室乗務員の訓練をうけている。立ち居振る舞い等は民航機と一緒。
しかし空中輸送員なので、直前まで作業服で貨物の搭載もする。


ブランケットにもJASDFが!

ロードマスターに積んでもらうのを待っているコンテナ。


飛行時間が長いから当然食事も出る。乗客の要望には出来る限り応えるように努力している。食器等はすべて「JASDF」マーク付き!

食事風景。まるで民航機。


訪問国の国旗と日本国旗を頭に着けている。訪問国に着陸したら、コックピットの非常脱出口を開け、アダプター2本できっちり固定。
意外と簡単に脱着できるのには驚いた。
また出発時は滑走路に向かう地上滑走中に速やかに撤収。
写真左から、格納庫内の政専機。コックピットの非常脱出口。脱出口を開けて国旗を着ける。国旗装着時のとびら。

訓練から戻った時も機長による外部点検

当初は羽田空港に政専機を配置する予定だったが、ジャンボ機2機分の格納庫を作る土地や離発着訓練の場所等を考慮し、千歳基地内に配置される事になった特輸隊。
室内履きの洗濯や窓掃除なども整備の仕事であったり、食事を出したり普通は余りしないような仕事をする。自衛官らしくないのかな、と思いながら取材を続けた。終わってみると、全く普通の自衛官だった。他の輸送隊は「主に物」を運び、特輸隊は「主に要人」を運ぶという違いだけで、パイロットもナビゲーターもロードマスターもパッセンジャーも整備もいつもと変わらない。少しだけ違うのは「自衛官同士の対応ではない」ということ。訓練を繰り返し繰り返し行い、即応態勢をとつている

イラク人道復興支援特別措置法に基づく輸送も行った。戻って来た政専機を見つけて泣き出した家族…。政専機が運んでいるものはとても多い。